

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

わたしにとって「つくる」は、「買う」と同列にある選択肢で、手づくりの味いとプロの技術、いつも両方の良さに触れていたいと思っている。

そもそも、モノを選ぶときに「自分でつくる」という選択肢をもっていることと、そうでないことの違いは、案外大きいような気がするのだ。何を手づくりするにしても材料は必要だから、それを自分で買ひそろえてみると、モノの原価がだいたいわかるようになる。そうすると、もし買ひもので思いのほか高いと感じる商品に出会ったら、その値段の高さの理由はどこにあるのか、検証してみたいくなる。

作り手の技術か、素材の良さか、あるいは輸送費や店の家賃や人件費なのか……理由に納得できる品なら、ためらわず買えばいい。でも、もうひとつ納得できない、あるいは、これぐらいなら自分でつくれるのかも、という思いがふと頭に浮かんだら、そのときに「つくりどき」だ。自分で選んだ材料で、買うよりもずっと安く、満足のいくものができたときの爽快な気分！これはもう、クセになる喜びである。

「手づくり」という響きには、どこか家庭的でどこかなイメージがあるけれど、実は消費者として現実的な目をもつ(結果として自分でつくる)人だっただいのではないだろうか。わたしはそんな後者のタイプで、自分の手を動かす作業じたいも楽しいけれど、買うのか、つくるのか、そのつど自分でよく考えて選んで、決めるといこうことを、できるだけ意識的にやりたいと、つねづね考えている。

それで自分の手をつくってみれば、それはやはり愛しいのだ。たとえ、食べもののように口に入れば消えてしまつてもだとしても。こどものころ、母親がつくってくれたおやつプリンや、縫ってくれたワンピースは、いまま記憶にはつきりと刻まれている。そうした実感があるから、いま自分が手づくりをする動機に、「思い出になる」という理由は、くわえておきたい。

逆説的なのうだけれど、手づくりに親しみ、腕が上がっていくほど、買う行為は楽しくなる。とういて自分ではつくれないと感じる、料理でも、服でも、家具でも、店のサービスでも……プロのクオリティに対して、敬意を込めてお金を払うのは、とてもまっとうなことと思えてすがすがしい気分だし、そうし

た経験から刺激を受けることで、素材や技術やセンスに発生する料金への、自分なりのものさしも磨かれていくと思う。

「つくる」という選択は、よいものは高価で、少ししかお金をかけられないなら質が低くてもしかたがない、という既成概念を、気持ちよくこわしてくれる。まったくお金をかけずに生きることではできないけれど、少しでも自分でつくる工程を差し込んでみることで、お金を払うことへの意識と、何でもつくれるしかなかった時代の知恵に学ぼうとする意識の両方を、愛しい完成品といっしょに手にすることができるようだ。そこには節約よりも、消費よりも、もっと創造的な喜びがある。

(小川泰緒『心地よさのありか』による)

バイインターナショナル

1 買うのか、つくるのか、そのつど自分でよく考えて、選んで、決めるとあるが、本文中で筆者は、自分でモノをつくるのは、どのようなときだと述べているか。その内容についてまとめた次の文の [ ] に入る内容を、本文中のことは使って三十文字以上、四十文字以内で書きなさい。

買うとした商品について、[ ] とき。

2 「思い出になる」とあるが、「思い出になるような自分でつくりあげたモノ」は、本文中では何と表現されているか。最も適しているひとつづきのことを、本文中から六字で抜き出さない。

3 ものさしとあるが、筆者がここでいう「ものさし」とは何をはかるものか。最も適しているものを次から一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 自分でつくったモノの価値がどの程度かをはかるもの
- イ 素材や技術やセンスへの対価が適当かをはかるもの
- ウ 自分でモノをつくる時に必要な時間をはかるもの
- エ プロのクオリティに対する満足度をはかるもの

4 「つくる」ということについて、本文中で筆者が述べている内容を次のようにまとめた。 [ a ]、 [ b ] に入れるのに最も適しているひとつづきのことを、それぞれ本文中から抜き出さない。ただし、 [ a ] は六字、 [ b ] は十字で抜き出すこと。

「つくる」ということには、買うだけでは得られない [ a ] があり、 [ b ] という理由が、技術が向上するほど [ b ] ものである。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

古語に、「<sup>①</sup>早に蓑笠を備ふべし。」といへる如く、ただいまどりをいでて、他所に行くに、天はれ日和よくして、雨ふるまじ景色なりとも、遠き所にゆかば、天変はかりがたければ、蓑笠を持ちゆくべし。たとひ、天気よく雨ふらずとも、蓑笠もたるいたづがはしきのみにて、さほどの妨げにあらず。若し思はざるに雨ふりなば、ぬれそぼちて衣ぬらすのみかは、心をいたましめ、身をくるしましめ、折節人にも用あるべき蓑かさ乞ひかりて、<sup>②</sup>又もたせかへすも、われ人のためにたづがはし。<sup>③</sup>よろづのこと、かねて心を用ひ、おそれつつしみ、ふかく思ひ遠く慮りて事を行へば、あやまちすくなく悔いすくなし。

(注) 早 日照り。ここでは、空が晴れていること。

蓑 かわなどで編んで作った雨具。肩から羽織り、からだをおおう。

笠 雨や雪を防いだり、日光をさきざきたりするため、頭にかぶるもの。

1 ① 早に蓑笠を備ふべしとあるが、この古語の内容について、本文中で筆者が述べている内容を次のようにまとめた。 [ ] に入る内容を本文中から読み取って、現代のことは書きなさい。

家を出て他の所に行くとき、雨が降らないような空模様であっても、 [ ] ならば、天気の変わり方が推測しにくいので、蓑笠を持って行くのがよい。

2 ② 又もたせかへすを現代かなづかいになおして、すべてひらがなで書きなさい。

3 ③ よろづのこととあるが、次のうち、このことばの本文中での意味として最も適しているものはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 簡単なこと
- イ すべてのこと
- ウ 特別なこと
- エ 初めてのこと

4 次のうち、本文中で述べられていることがらと内容の合うものはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 人から蓑笠を借りるときは、相手の予定を妨げないように配慮すると相手の機嫌をそこねることが少なくなる。
- イ 人に蓑笠を貸してしまつと、自分の衣服はぬれてしまつが、その思いやりが思わぬ利益となって戻ってくる。
- ウ 少しの失敗や後悔をおそれ思い悩むのではなく、考えるよりも先に行動すると、成果を得ることができぬ。
- エ 前もって思索し、慎重に注意深く、先のことまでよく考えて行動すると、失敗や後悔が少なくなる。

三 次の問いに答えなさい。

1 次の(1)~(4)の文中の傍線を付けた漢字の読み方を書きなさい。また(5)~(8)の文中の傍線を付けたカタカナを漢字になおし、解答欄の枠内に書きなさい。ただし、漢字は楷書で、大きくていねいに書くこと。

- (1) 花の香りが漂う。
- (2) 夏の日差しが和らぐ。
- (3) チームが上位に躍進する。
- (4) 心の琴線に触れる作品
- (5) 意味の二にている言葉を探す。
- (6) 返答にコマる。
- (7) 施設の使用をキョカする。
- (8) 荷物をユウビンで送る。

2 次の文中の傍線を付けたことばが「物事を始めるのによい時となる」という意味になるように、にあてはまる漢字一字を、あとのア~エから一つ選び、記号を○で囲みなさい。

あせらずに、が熟すのを待つという姿勢が大切だ。

- ア 気
- イ 器
- ウ 機
- エ 紀

3 次の「格」という漢字を行書で書いたものである。楷書と比較したとき、(○)で囲まれた①と②の部分に表れている行書の特徴の組み合わせとして最も適しているものを、次のア~エから一つ選び、記号を○で囲みなさい。



- ア ① 点画の省略 ② 点画の連続
- イ ① 点画の連続 ② 点画の省略
- ウ ① 点画の省略 ② 点画の省略
- エ ① 点画の連続 ② 点画の連続

四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

書き出しに迷ったら、会話からはじめてみると語った小説家がいる。とりあえず最初に台詞を記して、登場人物が動きだすきっかけを作るといことだろ

ってスポーツ新聞を買っていくのか、それとも経済紙なのか英字紙なのか。こうした自宅から駅までのいわば動線を辿り、実際に描写するかどうかに関わりなく、登場人物の性向や生活感情を掴むための事前調査をするのだ。

フィクションなのだから、前もって考えていた人物像は書きながら変化すると、また変化しなければ話は停滞する。それでも、登場する人々の暮らした具体的な基本情報を思い描きながら、会話を追っていく。追っていくと述べたのには理由がある。いま言ったことと矛盾があるように聞こえるかもしれないが、作者がいくら人物の家族関係や仕事などの③的な情報を把握して書いているつもりにせよ、何をどのように考え、感じているか、思考や感情は④的にしか判らない。書き手はまるで現実の生身の人間と付き合うように、登場人物が何を考えどのような感情で生きているのか追うのだ。

おもしろいことに、自分が創作した人間たちのはずが、何をどのように考え感じているのか判断に迷い、ふと漏らした一言にも、その意味をめぐって考えあぐねたりするのだ。

(中村邦生『書き出しは誘惑する―小説の楽しみ』による)

(注) パーソナリティ 個人の特徴。

生きやか 生氣があり新鮮なさま。

端役 主役や脇役ではない、ちょっとした役。

バックグラウンド 背景。

一瞥 ちらりと見ること。

1 独自のパーソナリティとあるが、小説における登場人物の独自のパーソナリティについて、本文中で筆者が述べている内容を次のようにまとめた。  
a、b に入れるのに最も適しているひとつづきのことばを、それぞれ本文中から抜き出しなさい。ただし、aは十四字、bは十九字で抜き出し、それぞれ初めの五字を書きなさい。

小説のなかでは、登場人物のパーソナリティについて  a  ことが多いが、創作した登場人物が独自のパーソナリティを備えているかどうかで、  b  。

う。創作の方法をめぐるインタビューでの発言だったように記憶しているが、誰であっか思い出せない。

風景描写と比べ、イメージを喚起させる表現の工夫をなくしてもよいことを考えれば、会話の書き出しは確かに楽なような気もする。ところが、簡単にうでありながら難しいのが会話だと私は思っている。たとえひとつの会話であろうと、何らかの言葉を発した以上、独自のパーソナリティを備えた一人の人間として生きやかに存在しなければならない。いま話しているのは、はたして何者なのか？ 問題はそこにある。

人物を登場させる以上、どういう人柄で、どこで何をし、どのような日々を送っている者なのか、人を人として生かしている具体性がなければならない。もちろん、これは書き出しに限ったことではなく、登場人物たちの行動の織りなす物語の展開そのものに及ぶ問題であるが。

◎会話は人物の生活感をダイレクトに描きだす。ごく簡単な例で言えば、「わたし、きのう髪型を変えてみたの、わかるかしら?」、「あたし、きのう髪型を変えちゃったんだけど、わかるよね?」、「おれさ、きのう髪型を変えてみたんだぜ、わかるかい?」と二人称の表現を変え、それに応じた口調にするだけで、同じ情報を持った文でありながら、読み手に伝わる人物像は異なる。中心的な役割を持たず登場人物はもちろんのこと、短い台詞が二つ、三つしかない端役であろうと、家族関係や職業といった生活的背景、経歴、好み、習癖など、その人を造り上げている要素を設定しておくことは意外に大事なのだ。ただし、これらの背景のすべてが小説のなかで記述されるわけではない。むしろ直接的な言及をほとんどしないことが多い。とりわけ端役の人物など、わざわざ生活者としてのバックグラウンドを想定しておいても無駄に思えるかもりれない。それでもなお、たとえ短い台詞ひとつであっても、発話された言葉のリアリティが違ってくるのだ。

いったいどのような人間なのか、試しに創作した登場人物を自宅から駅まで歩かせてみるとよくわかる。道すがら何に関心の目を向けるかによって、人間性や生活感が浮き彫りになることさえあるのだ。駅までの家々の庭に咲く季節の花を楽しんでいくのか、顔見知りの人と次々と会い、笑顔で挨拶を繰り返しながらいくのか、駅前の喫茶店に入ってモーニングサービスのトーストとゆで卵を食べていく習慣があるのか、洋品店のショーウィンドーに映る自分の姿を一瞥して、その日の服装をチェックしていくのか、コンビニにあわただしく寄

2 ◎会話は人物の生活感をダイレクトに描きだす」とあるが、本文中で筆者は、これをどのような例を用いて説明しているか。その内容についてまとめた次の文の  に入る内容を、本文中のことばを使って四十文字以内で書きなさい。

同じ内容の文であっても、 という例を用いて説明している。

3 次のうち、本文中の③、④に入れることばの組み合わせとして最も適しているものはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア ③ 明示 ④ 暗示
- ウ ③ 流動 ④ 固定
- イ ③ 楽観 ④ 悲観
- エ ③ 現実 ④ 理想

4 次のうち、小説の作者と登場人物の人物像との関係について、本文中で述べられていることがらと内容の合うものはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 作者は登場人物の性向や生活感情を掴むための事前調査を行い、そこで得た情報をもとに自宅から駅まで歩かせてみることで、創作した登場人物が何に関心の目を向けるかを知ることができる。

イ はじめに設定した登場人物の人物像は変化していくので、作者は話を停滯させないために、登場人物が何をどのように考え感じているのかをそのたびごとに思い描きながら、会話を追っていく。

ウ 作者は創作したすべての登場人物の思考や感情とその人々の人物像との矛盾をなくすために、登場人物が何をどのように考え感じているのか判断に迷うときは、はじめに設定した人物像を変化させる。

エ 作者は、登場人物の暮らしの具体的な基本情報を思い描きながら会話を追っていくが、自分で創作した人間であるにもかかわらず、登場人物が発した一言の意味について、考えあぐねたりすることがある。

